

# 百万遍知恩寺と裕天上人

大正大学教授 玉山成元

京都にある浄土宗大本山知恩寺は、一般に百万遍という。バス停の名前にもなつて有名であるが、文字どおり、百万遍念仏の根本道場である。元弘元年（一三三一）秋、京都一帯は広く疫病が流行した。そこで後醍醐天皇は、知恩寺人世善阿空円上人に命じ、宮中の紫宸殿で七日間、百万遍念仏を行わせて祈ったところ、不思議にも悪病は止んだ。喜んだ後醍醐天皇は「百万遍」という寺号と、弘法大師が書いたという「利剣名寺」を賜った。それ以来、浄土宗では広く百万遍念仏が行われるようになった。

百万遍念仏は、もともと極楽往生を願うものであるが、やがてなくなつた人々の追善や災難をのがれて幸福を招くという考え方が流行するようになった。念仏の方法も、一人で七日または十日間に百万遍を称える方法や、十人またはそれ以上の人々が合唱した念仏の総計を百万遍とするなど、その方法はまちまちであるが、後世になると、一人で百万遍称えることは大変困難であるため、多くの人々

が寄り集まつて称えた総計が百万遍になる方法が行われるようになった。今でも葬式の通夜とか、四十九日の夜とか、あるいは春と秋の彼岸に、追善として行っている地方も多い。農業と結びついているのとしては、「虫送り念仏」とか「雨乞い念仏」などあるが、「悪疫退散」や「無病息災」など病気に關するものも多い。

祐天上人が羽生村の菊の病気をなおしたのは、百万遍念仏を行つて回向したからである。いろいろな因縁があつて菊の病は重くなつたのであるが、そのとき空木を輪切りにし、空心に糸を通して作つた念珠が法蔵寺に現存するという。飯沼弘経寺の百万遍念仏は、祐天上人の影響によるところが大きく、弘煙寺のもと末寺では、現在でも葬式のち百万遍念珠を操つて回向することが続けられている。元禄二年（一六八九）祐天上人は関西に旅行をした。伊勢神宮に参詣し、山田に滞在して念仏布教を行った。そのとき重病の一人娘をかかえた神官が、大神宮の託宣だから、何とか娘の病気をなおし

てほしいと頼まれた。そこで、祐天上人は、一同の人々と一緒に百万遍念仏をしたところ、娘の病気は全快し、神官親娘は熱心な念仏信者になつたという。

このように祐天上人と百万遍念仏には深い關係がある。だから、このあと京都入りした上人は、百万遍知恩寺を参詣されたことはいうまでもない。

堂内に大きな百万遍数珠がかつた広い知恩寺の大殿は、御影堂である。中央にはすばらしい法然上人の木像が安置されている。おそらく法然上人像としては最古の木像と思われる。同じ堂内ではあるが、正面より右側奥の壇上に当山二世の源智上人が安置されている。浄土宗の人々にはなじみの深い、大きな良い木像である。源智上人のお厨子のすぐ右脇に、やや小ぶりのお厨子がある。一見して江戸中期の作と思われる厨子で、正面屋根の中央に鳳凰の彫刻があり、その下の軒には、桝組の中央に飛天や雲龍が刻まれている。美しい彩色は時間のせいかわれ落ちて見える。さらに赤地に金欄の菊を

# 百万遍知恩寺と裕天上人

大正大学教授 玉山成元

散りばめた錦の幕が下がっており、二つに分かれたその間から裕天上人の木像を拝むことができる。

裕天上人像は六十センチぐらいの坐像で、緋衣に七条・水冠をつけた正装で合掌している。『祐天寺誌』によると、この像は正徳二年（一七一二）の冬、江戸の仏師竹崎石見が作った上人七十七歳の寿像であるという。祐天上人像はいくつかあるが、これは増上寺の住職時代に作られた最初の像であるという。水冠は金欄で織り格子になっており、七条の袈裟は、茶地に唐草や桐葉をおいた模様が描かれている。祐天寺に現存するすばらしい夏袈裟とよく似ている。おそらく大奥からいただいた金欄で作ったこの袈裟の柄を写したものでなかるうか。

この祐天上人像は、寛政五年（一七九三）七月五日、祐水上人が幕府の命令で、百万遍知恩寺五十四世として入寺したとき、持参されたという。祐水上人は祐海上人の愛弟子で、祐天上人の孫弟子に当る。心から祐天上人を尊敬した祐水上人

は、お師匠さまの祐海上人と同様に、祐天上人の功德を世間に広めようと努力された。そこで毎月十五日に行われている百万遍念仏を盛んにし、集まった信者の多くに護符を授けた。この護符は縦約三センチ、横五・五センチの和紙に、祐天上人のお名号十念が書かれたものを木版ですったものである。昔は「厄除名号」として善男善女から感謝されていたが、最近はこのお名号の護符があることすら知らない人々がほとんどである。誠に残念なことである。執事長渡辺敏祐上人は、今でも京都大学の教授方が外国に行くときには、水あたりの妙薬として、必ずこの名号を持参するという。科学の先端をゆく京都大学には祐天上人のご利益が生きている。どんなに科学が進んでも、科学では救われないものがあることを知らなければならぬ。海外旅行ブームの現在、水あたりに苦しむ人も多い。厄除けをかねて、このご利益を知らせてあげたい。